

■ ABPIA 会議の報告（韓国濟州島會議） 2011年11月4日～5日



濟州島の景色

ABPIA(アジア小児ボバース講習会講師會議)は、脳性まひ8週間基礎講習会の運営やアジアでのボバース概念の普及をはかる目的で、現在、インストラクター、専任講師、候補者63名で組織されています。毎年秋に會議を行い、3年に1度は韓国で開催するように計画するようにしています。2008年に、はじめて韓国(釜山)で會議を開きました。3年を経て2回目となる會議は、韓国の最南端である濟州島で行われました。濟州島はちょうど福岡辺りの緯度にてあり、アメリカのハワイや日本の沖縄のような観光に適した美しい島です。会場は、濟州島でも最も古いとされる町の中心部に位置するグランドホテルで行われました。



ホテルのウェルカムボード



観光の様子

小室さん、原さん、鈴木さん、辻さん、野口さん

出席者は、日本から20名、韓国から10名の合計30名で、韓国のメンバーからとても手厚いお出迎えと接待をしていただきました。濟州島の気候は、会期中、雨まじりではありましたが、暑いぐらいの陽気でした。日本から韓国への渡航は、東京、大阪、福岡からいくつかのルートからそれぞれが入国し、4日の會議前日から観光するグループと4日夜に入国するグループに分かれました。5日は、終日、ABPIA ミーティングを行い夕刻には懇親会をホテル内で行いました。6日は、それぞれのルートで帰国となりました。

## 会議内容

11月5日(土)終日グランドホテルの2階会議室でABPIAミーティングが行われました。午前9時30分からスタートし、昼食をはさみ、午後5時まで行われました。

午前中は教育セッションで、韓国ボバース病院のShin先生と鈴木先生によるご講演でした。韓国の基礎講習会アシスタントメンバーも参加されました。



教育セッションの様子  
(鈴木先生講演の様子)

Shin先生は「Chemical Neurolysis for Distal Control of Spastical of in Cerebral Palsy」で、薬物療法から末梢コントロールを行い、EBMに基づき見解を示されました。日本国内でもボツリヌス毒素治療が多くなっていることと同様に韓国でもセラピーと併用して進められている状況が伺えました。末梢の状態の管理が脳性まひ児の治療に重要であることが強調されていました。鈴木先生には「Task performance & future prospects of Bobath approach in rehabilitation for cerebral palsy」のテーマでご講演いただき、近年のボバース概念の捉え方を明確にいただきました。日本における第1回学術大会でのご講演と同様に、現在のボバース概念のおかれている状況や課題が明確になるとともに今後の方向性が示された内容でした。両先生の濃厚な内容を確認・実践して、今後のボバース講習会に繋げていきたいと感じました。

午後からは、ビジネスミーティングで、昨年度の総会議事承認と今年度の議案確認から始まり、次年度計画を検討しました。新たな専任講師の昇格やインフォメーション講習会の報告等を確認しました。また、次年度のインフォメーション講習会や療育関係職種講習会の予定と内容を検討しました。加えて、インフォメーション講習会後や基礎講習会後に行う新たなフォローアップ講習会やエクステンション講習会を企画することが提案されました。講習会受講者からの要望も多くあることから、積極的に開催することを講師間で確認し採決しました。韓国からは、アジア地区で特にインドネシアやフィリピンのメンバーへの基礎講習会やインフォメーション講習会を韓国の洪さん中心にすすっていくことの報告がありました。

課題は、前年度から検討しているコアカリキュラムの件と講習会で講義や実習を実施するうえでPT-OT-ST間の情報を整備し、一貫した指導を提供するために、チューターズモジュールを実施することなどを確認しました。

## 懇親会の様子

夕刻には、懇親会をホテルの同じ会場で行いました。海の幸が多く使われた韓国料理がとてもおいしかったです。また、今流行のマッコリをいただきました。懇親会では、韓国グループから

ボバース概念の発展に功績を残された紀伊先生にプレゼントが贈られました。韓国での紀伊先生の苦労話をコメントの中で聞かせていただきました。韓国グループの方々とも話ができて、韓国のなかでもボバース概念が定着し、発展していることを実感できました。そして、アジア諸国への啓蒙をさらに進めることが必要で、経済的な大きな問題はありますが、日本と韓国が協力しながら、アジアのボバース概念発展に繋がればと感じました。



紀伊先生へプレゼント贈呈



懇親会の参加者

アジアで日本がおかれている立場を充分理解する必要があります。ボバース概念の発展には、今後さらに期待が膨らむことでしょう。韓国で小児分野の保険点数が激減したことなど、韓国事情を少しも感じさせないパワーがある国と今回の会議で実感しました。これからもパートナーシップをより深めて行くことが必要と感じました。

## おわりに

ボバース概念の治療推進においては、先行してきた日本ではありますが、韓国グループのパワーに負けない良い意味での競争心を持つことが必要です。また、これからさらに、アジア諸国への貢献につながるようすすめる必要性を感じました。今回の会議は、基礎講習会の内容充実とボバース概念小児部門の発展につながる充実した内容でした。(報告：大阪発達総合療育センター 海瀬一典)